

平成26年度インターンシップ実習報告書

実習先: 小倉クラッチ株式会社
学科学年: 電気電子工学科 3年
氏名: 杉山俊介

■インターンシップへの参加目的

仕事のイメージが湧いてこなかったため、インターンシップへ参加して、今後の就活や将来の選択において利用しようと思ったため、また、製品を開発する職というのがどういうもの、どういう人が働いているのか知りたいと思ったからです。

■受入企業選定理由

エネルギー・制御系統の分野について興味を持っています。クラッチ・ブレーキの技術は、自動車は勿論、ほとんどの機器に含まれていて、制御対象を制御することに重要な役割を果たしているのが興味を湧き、小倉クラッチ株式会社はクラッチ・ブレーキの開発機種5000機種以上で、その他の製品も製造しており製造業の仕事について学べると思ったからです。

■得られた成果

工場見学や役割の異なる職場を見たことで、製造業という仕事のイメージを持つことができました。実習を通して、製品を開発する流れを知り、実際に携わらせていただいて開発とはどういうものかを感じました。また、評価実験から得られたデータをまとめることにおいても、私はこの項目と項目は比べても意味がないと先入観をもって行ってしまったのですが、データから多くのことを得るためには、いろんな見方をする必要があるので教わりました。このように、指導して下さった方々から開発職に必要なスキルを学びました。パワーポイントでの発表練習では多くのアドバイスをもらい、最後に社内発表をさせていただき良い経験になりました。

■実習を通じて感じたこと

評価実験の測定中に、測定器の規定の数値より超えるため他の測定方法を考えなければいけないことになり、同じ課内だけでなく他の課の方とも相談して最善の方法を決めたのを見て、黙々と一人で仕事をするのかなと思っていましたが、社員間の連携が大切であるのを感じました。また、複数の同機種のブレーキを評価する際は限りなく正確なデータをとるために測定条件が同じになるように努め、考察できる材料は全てとっておくといった実験設定で、授業での学生実験とはまた違ったものを感じました。

■後輩へのアドバイス

インターンシップの前まで機械系の知識がなくて実習はできるであろうかと不安があったのですが、実習で勉強をし、担当の方が「少しでも不安なこと、疑問があったら遠慮なく聞いて」と本当に親切に実習中指導して下さったので、実習ではそのような心配はありませんでした。しいていうなら、パワーポイント、エクセルをうまく使えるといいと思います。分からないこと、確認したいことがあったら遠慮せずに担当の方に質問した方がいいと思います。

■最後に

これは偶然なのか分かりませんが、担当の方が群馬大学の電気電子工学科の出身であったので、活躍されている姿を見て、機械分野だけでなく電気電子分野のことも活かされているのだなと思いました。貴重な体験をさせていただき本当に良かったです。ありがとうございました。